

＊地域福祉計画より（全9回）

「おしえて！地域の支え合い」

【第1回 第3次地域福祉計画】

かつて近隣に住む人同士の助け合いは、日常的に行われていました。日用品の貸し借りや届け物を預かったり、お裾分けしたり、冠婚葬祭の手伝いや急病人が出たときの世話など、隣近所の協力や助け合いは、至る所で目にされました。ところが、近年では、かつてあった地域のつながりに大きな変化が生じ、希薄化したと言われています。

市が3月に策定した「第3次地域福祉計画」は、住民同士の協力や支え合いの重要性に着目し、**地域で暮らす人と人のつながりを再構築**することを目的としています。

そして、これから目指す地域の未来像として、「互いに**支え合う地域**」「ふれあい・交流のある地域」「一人ひとりを認め合える地域」を掲げています。

このコーナーでは、これから計画で掲載されている地域の活動事例を紹介していきます。

住み慣れた家や地域で暮らし続けるためには何が必要か？まずは、地域について話題にしてみてください。そして、地域でできることは何か、考えてみませんか。

～第2回に続く～

☎ 社会福祉課 ☎ (484) 6135



＊地域福祉計画より（全9回）

「おしえて！地域の支え合い」

【第2回 地域を歩こう。あいさつしてみよう。】

地域の支え合いについて考えるシリーズ、全9回連載の第2回目をお届けします。

生活習慣病の原因のひとつに運動不足があります。健康づくりのために、歩くことから始めてみませんか。

時間をみつけて歩く中で、見えていなかった風景を発見することもできるでしょう。そして、地域のかたとあいさつをしてみてもいいでしょうか。そこから、人との出会いやふれあいも生まれます。それは、毎日の暮らしを豊かにし、町の雰囲気を変えることにもつながると思います。

（事例）あいさつから始まる地域づくり

根郷地区では、民生委員・児童委員を中心に小学校で「朝のあいさつ運動」が行われています。近隣住民のかたがたが、学校周辺の清掃を行い、登校してくる児童に朝のあいさつをしています。

あいさつをすることで、子どもや保護者に顔を覚えてもらい、登校時以外にもあいさつが交わされる関係が構築されていきます。また、地域で子どもを見守ることで、子どもたちにも地域の中で育てられているという感じてもらい、生まれ育った「ふるさと」への愛着や地域を大切にする気持ちが育まれます。

～第3回に続く～

☎ 社会福祉課 ☎ (484) 6135



＊地域福祉計画より（全9回）

「おしゃべり！地域の支え合い」

【第3回 気軽に集おう】

かつて隣近所同士の協力は、いたる所で行われていました。ところが近年では、「顔は知っているけど話したことはない」「隣人の顔を知らない」という人も増えています。



「地域とのつながりを持つ機会がない」というかたは、まずは気軽に参加できる場に出かけてみてはいかがでしょうか。

健康づくりや趣味の活動をしているサークルもたくさんあります。おしゃべりする機会や相手が増える中で、日々の暮らしにも笑顔が増えていくのではないのでしょうか。

（事例）自由参加のラジオ体操

西志津地区では毎朝、ラジオ体操が行われています。地域の交流の場として長年続けており、1日約200人超、年間で延べ6万人以上が参加しています。

夏休み中は、小学生が朝礼台の上でお手本として体操します。子どもの顔を地域のかたに覚えてもらう機会になるとともに、子どもの積極性を養うことにもつながっています。

毎朝、顔を会わせる中で交流が生まれ、ラジオ体操以外の場にも、その交流が広がっています。

～第4回につづく～

☎ 社会福祉課 ☎（484）6135

＊地域福祉計画より（全9回）

「おしゃべり！地域の支え合い」

【第4回 声を掛け合おう 誘い合おう】

地域の支え合いについて考えるシリーズ、全9回連載の第4回目をお届けします。



現在、高齢者が増加しています。高齢者にとって、つながっている人や見守ってくれる人が身近にいることは、大きな支えになります。地域全体でつながり、見守り合う関係を作ってはどうか。

そのためにも、まずはどんな人が同じ地域に住んでいるのか、お互いに把握することから始めてはいかがでしょうか。例えば、月に一度の「お茶会」や「おしゃべり会」を地域で催してみるのもいいでしょう。そうした会が回数を重ねて、信頼感が深まれば、お互いの悩みを相談し合えるようにもなり、気づかいや支え合いが自然と地域で生まれてくることになります。

（事例）地域を活性化させる高齢者のサークル

白井台地区では、4つの自治会が協力して、高齢者が集まれる場所づくりをしようと呼びかけ、「いきいきクラブたぐり」という団体を立ち上げています。

この団体は、原則75歳以上のかたを対象に、毎月テーマを決めて、介護予防講習や地域の中学生との交流、みんなで歌を歌って談笑など、気楽に参加できる会を目指して活動しています。この活動に参加することで友達もでき、家に閉じこもりがちだったかたが、外に出るきっかけにもなったとのことでした。

また、参加している人の中には、自分の能力を活かして、広報や運営などに協力しているかたもいます。

～第5回に続く～

☎ 社会福祉課 ☎（484）6135

＊地域福祉計画より（全9回）

「おしえて！地域の支え合ひ」

【第5回 子育てを応援しよう】

核家族化の進行、就労形態の多様化など、子育てを取り巻く環境が大きく変化しています。今まで子育ては、家庭の育児と公的サービスが中心でしたが、もっと地域ができることもあるのではないのでしょうか。

地域には子育て経験のある頼れる先輩たちがたくさんいます。自分の子育てが終わった世代にも、地域全体で子育てをするという意識を持ってもらうことが大切です。

地域で子どもを育てることで、子どもたちにも自分が生まれ育った地域への愛着が育まれていきます。

【事例】 地域で子育てを応援するネットワーク

子育て支援活動を行っている団体や個人等がつながることを目的とした「子育てネットワーク佐倉子育て応援団」というグループがあります。

毎月、「佐倉子育てカレンダー」という情報紙を作成し、子育て中の親が孤立することなく、子育てが楽しくなることを目的に、子育て関係のイベントなどを紹介しています。

また、中志津中央商店街では、乳幼児を連れた親や地域のかたが、気軽に立ち寄りお話しができるカフェが開かれています。子育て中の悩みを抱えた親同士が交流することで、悩んでいることがスッキリしたり、地域のかたと小さい子どもがふれ合うことで、お互いが笑顔になれる場となっています。



☎ 社会福祉課 ☎ (484) 6135

～ 第6回につづく ～

＊地域福祉計画より（全9回）

「おしえて！地域の支え合ひ」

【第6回 絆をつくらう】

現在は、さまざまなサービスがお金で買えるような時代になり、人に頼ることを避ける傾向になっています。

しかしそれでも、人はひとりでは生きていけない存在です。時には周囲に「甘える勇氣」も必要ではないでしょうか。困ったことがあったら、小さなことでも周りに聞いてみてはどうでしょうか。

例えば、かつて自宅の調味料が切れたとき、隣の家に借りることは、頻繁に見られた光景だったと思います。

隣近所で気軽に話せて頼める関係になり、お互いを思いやる関係ができると、暮らしやすい地域になると思います。

【事例】 近所の有志による見守り・助け合い活動

佐倉地区の栄町町内会には、有志による近所同士の支え合い、助け合い活動を行っているグループ「なごみ会」があります。なごみ会では、毎月1回町内会集会所に集まり、サロンのようにおしゃべりしながら、近所の情報交換をしています。

以前、家の建て替えに伴う引っ越しで荷物整理に困っている会員がいた時は、なごみ会の仲間が手伝い、とても感謝されたとのことでした。普段から声を掛け合い、押しつけではなく、気持ちよくさらりと行動できる関係を大切にしているとのことでした。



☎ 社会福祉課 ☎ (484) 6135

～ 第7回につづく ～